

= 国際交流 =

韓国チャンウォン大学との共同研究論文が国際会議で優秀論文賞受賞

(電気電子工学科)

本学と国際交流協定を締結している韓国チャンウォン大学工学部電気電子工学科パク研究室に研究教授として在籍しているモハマド・ハサン・アリ氏の論文が、去る10月8～11日、韓国ソウル市で開催された ICEMS2007 (International Conference on Electrical Machines and Systems 2007、2007年電気機械システムに関する国際会議)において優秀論文賞を受賞しました。

論文タイトルは「Improvement of Wind Generator Stability by Fuzzy Logic-Controlled SMES (ファジィ制御された超電導エネルギー貯蔵装置による風力発電機の安定度改善)」です。

本国際会議は、日本、韓国、中国、米国の電気学会が共催する電気機械システム分野に関する国際会議です。

アリ氏は本学大学院博士課程を修了後、日本学術振興会外国人特別研究員として本学電気電子工学科田村教授の研究室に在籍し、今年の2月からチャンウォン大学パク研究室に移籍して、田村研究室との共同研究を進めておりました。田村研究室からは、今年8～9月にマスター2年の学生が約40日間パク研究室



優秀論文賞の賞状

に留学する等、本学との国際交流協定締結以後着実に成果が上がってきており、今後の進展が期待されるところです。

留学生スキー研修を実施

(研究協力課)

1月11日(金)、留学生対象のスキー研修を端野メビウススキー場で実施しました。

当日は晴天に恵まれ、留学生およびチューターの日本人学生合わせて30数名の参加者は、すがすがしい空気の中、新春の初滑りを楽しみました。

研修は現地インストラクターの指導の下、初心者と経験者の二組に分かれて行われました。

スキーで歩くこともままならなかった初心者も、午前の研修の終わりにはリフトに乗せられ、時に悲鳴を上げ、雪まみれになりながらも何とか無事に下山。一日の研修が終わる頃にはスキーのコントロールもかなり上達し、各自思い思いのペースで滑降を繰り返していました。



インストラクターの指導を受ける留学生



おっかなびっくり・・・